

平成23年度第2回市長定例記者会見てん末

日時：平成23年9月26日（月）午前9時

場所：市役所第3仮庁舎中会議室

【出席者】

- ・市 市長、副市長、企画部長、広聴担当者
- ・報道関係 IBC岩手放送、朝日新聞、岩手朝日テレビ、岩手日報、NHK、河北新報、テレビ岩手、東海新報社、読売新聞（50音順）

1 開 会（企画部長）

おはようございます。定刻になりましたので、9月市議会定例会前の市長記者会見を始めます。最初に市長からあいさつをいたします。

2 市長あいさつ

皆さんおはようございます。市議会議員選挙が終わり、新しいメンバーで、議会を開会するわけですが、本日は議会の内容につきまして、お話させていただきます。

3 会見項目

皆さんのお手元にある資料でございますが、資料の1ページに日程の予定がございます。今日の議運で正式に決定しますが、一般質問は本日正午の締切となっております、今のところ3日間を予定しております。

ページをめくっていただきまして、報告第1号は報告が義務付けられておりますが、平成22年度陸前高田市健全化判断比率の報告については、実質公債費比率が、18.2パーセント、将来負担比率が、150.62パーセントで、いずれの比率も早期健全化基準を下回ったところでございます。健全化判断比率につきましては、平時から議論がありましたが、今は緊急時ですから、平成22年度はこういう結果になったということでございます。

報告第2号、平成22年度陸前高田市資金不足比率の報告についてですが、これは数値は算出をされていないものでございます。

また、議案第1号から第4号については、人事案件であることから割愛させていただきます。

議案第5号ですが、陸前高田市役所仮庁舎建設工事の変更請負契約締結についてであり

ますが、この工事は4月に専決処分を行い、4億7,029万5,000円で陸前高田市建設企業体と契約を締結し、工事を進めてきたところでありますが、諸般の事情により、工事内容に変更が生じたことから、当初設計を見直し、1億8,662万700円を増額し、変更後の金額を6億5,691万5,700円にしようとするものであります。

議案第6号、高田西地区復興整備事業の実施協定締結についてであります。高田西地区復興整備事業の用地取得業務及び用地造成等業務について、岩手県土地開発公社に委託するため、実施協定を締結しようとするものであり、実施協定に基づき負担すべき金額が1億5,000万円を超えるため、地方自治法の規定により議決を求めるものでございます。

議案第7号、負担付の寄付の受納についてであります。財団法人中国地方郵便局長会から陸前高田市立図書館の図書購入費用として負担付きの寄付(750万円)の申し出があったので提案するものでございます。

議案第8号、陸前高田市税条例等の一部を改正する条例について、現下の厳しい雇用情勢に対応して税制の整備を図るための地方税法等の一部を改正する法律が公布されたことに伴い所要の改正をしようとするものでございます。

議案第9号、災害弔慰金の支給等に関する条例の一部を改正する条例について、であります。災害弔慰金の対象となる遺族の範囲が拡大されたことに伴う改正、および、災害弔慰金等の支給に関する重要事項を審査するための審査会を設置しようとするものでございます。

議案第10号、陸前高田市立図書館図書購入基金条例についてであります。陸前高田市立図書館の図書購入資金に充てるための基金を設置しようとするものでございます。

議案第11号、陸前高田市立社会教育施設整備基金条例について、であります。被災した図書館、博物館などの社会教育施設の整備を図るための基金を設置しようとするものでございます。

議案第12号、陸前高田市国民健康保険広田診療所整備基金条例について、であります。被災した広田診療所の整備を図るための基金を設置しようとするものでございます。

議案第13号、平成23年度陸前高田市一般会計補正予算(第5号)ですが、公共施設の災害復旧費、派遣職員負担金等の人件費及び財政調整基金積立金等を計上しているところでございます。

議案第14号、平成23年度陸前高田市国民健康保険特別会計補正予算(第3号)です

が、事業勘定の事業の見直し及び診療施設勘定における広田診療所整備基金への積立等を計上しているところでございます。

議案第15号 平成23年度陸前高田市介護保険特別会計補正予算（第2号）ですが、事業内容の変更等による補正を行っているものであります。

議案第16号から議案第24号までは、決算についてでございますので、割愛させていただきます。

次に会見項目の(3)ですが、9月下旬から10月のイベントについてでございますが、明日、サントリー地域文化賞贈呈式がANA インターコンチネンタルホテル東京で行われます。これは、全国太鼓フェスティバルが特別賞を受賞したことによるものでございます。

10月1日土曜日は、「全国太鼓フェスティバル in ナゴヤドーム」が開催されます。

また、10月4日火曜日には、夜になると思いますが、私と中学生の対談を行う予定となっております。

10月22日土曜日ですが、今般の震災で亡くなられた方々の合同慰霊祭を高田小学校で行います。

翌23日の日曜日には、「がんばれ陸前高田 みんなでつくる元気弁当発表会」がサンビレッジで行われますが、私も出席させていただく予定となっております。

以上で、私からのご説明を終わらせていただきます。

(企画部長)

今市長から説明がありましたが、議会の関係でご質問がございましたらお願いします。

(記者)

仮庁舎の建設工事の増額は、具体的にどの部分なのでしょうか。

(市長)

仮庁舎の具体的な部分はこれまで3棟を建てて、やってきましたが、復興対策局が第一仮庁舎の2階にありまして、あれぐらいのスペースで復興の話を進めていくのは難しい状況です。会議室も常に埋まっている状態で、狭すぎるなということです。これからいろいろなことをやるのに支障をきたすということで、建物を増設するということです。

(企画部長)

そのほかございませんか、議会の関係ですが。

<質疑なし>

(企画部長)

それでは、イベントのスケジュールについて、ご質問をお願いいたします。

(記者)

10月1日にナゴヤドームで行われる全国太鼓フェスティバルですが、開催に至った経緯を詳しく教えてください。

(市長)

これは青年会議所の全国大会が、今回たまたまでしょうけれども、名古屋の青年会議所主催で行われることになっておりまして、その中で震災がありましたので、復興に向けたパネルディスカッションや全国太鼓フェスティバルを、そのうちの1つのプログラムとして組み込んでいるということです。こちらからお願いしたわけではなく、あくまでも名古屋市の青年会議所が主催です。

(記者)

これらのイベントは全部市長が出席するのでしょうか。

(市長)

はい。その予定です。資料には書いておりませんが、10月の半ばに名古屋まつりというのがありまして、それにも出席する予定です、名古屋市議会の方で、謝意を述べさせていただくことになっております。

(記者)

慰霊祭の時間は決まっているのでしょうか。

(企画部長)

現時点では、時間までは決まっていません。

(記者)

10月4日の中学生との対談ですが、市内の全中学校から代表がくるのでしょうか。

(市長)

そこまで詳しくは聞いておりませんが、セーブ・ザ・チルドレンの活動に参加している中学生のうち、私とお話したい人ということになると思います。

(企画部長)

会見項目に関わらず、この際にご質問等がございましたらお願いします。

(記者)

防潮堤の話題になりますけども、高さが12.5mになることが確実で、市長は15mを主張されてきましたが、それについての評価と今後の復興計画の策定に与える影響はありますか。

(市長)

私が15mを主張してきたのは、JRから北の部分、山手の部分を使うことを想定してきましたから、防潮堤の高さにこだわっているわけではなくて、土地が使えるのであればいいのですが、12.5mになると知恵を出さなければなりません。県もみんなで知恵を出しましょうと言ってくださっていますし、我々のプランからいい着地点を見い出せるのではないのでしょうか。

(記者)

12.5mにして、面積的に想定の何割か減るということでしょうか。

(市長)

15mだと2mの土盛りでよかったのが、12.5mだと道路のかさ上げ等、今までの計画から1つ2つやるべきことが増えます。土地が使えると、防潮堤の高さには関係ありません。土地利用の観点からそういう主張をしてきたつもりです。

(記者)

それがなかなか進まなくなると、面倒なことになってきますが。

(市長)

知恵を出さなければならなくなります。市の職員も。県も陸前高田は被災の度合いが大きいし、厳しいということを思ってください。何らかの知恵を出してくださるものと思っております。

(記者)

防潮堤の関係で策定の時期がずれる可能性はありますか。

(市長)

3次補正の内容次第でずれることもあると思います。大船渡も7月と言っていたのがずれています。外的要因が多いのがその原因です。

(記者)

現時点で、復興計画の策定は11月末で変わりありませんか。

(市長)

今は11月とっていますが、事情によっては少し伸びると思っています。今のところは11月末と考えております。

(記者)

11月末までの計画策定は順調でしょうか。

(市長)

土地利用の問題ですが、我々が計画している土地利用が担保されれば、今のプランが生かされます。今日復興検討委員会が行われますが、今回で3回目ということで、核心に入っていきますし、ソフト面にも言及していきますので、11月末は無理な時期ではないと思っています。

(記者)

平成22年度の財政比率ですが、23年度の見通しはどのようなのでしょうか。復興していくのにあたって、市税の減少も見込まれますが、ザクツとした感触を教えてくださいなのですが。

(市長)

元々市税は10数億しかなく、交付税でまかかっていましたが、固定資産税は地価が高いところは家がなくなり、企業法人税も、商店街をはじめ被災しているので、税収は見込めない。そこで、健全化判断比率を計算しても何ともならない状態で、財政課でも推計はしていない状態だと思います。

(企画部長)

無駄な予算執行はなく、災害復旧などの国の補助制度を活用や支援を国に要望していくことになります。

(記者)

地方債を発行するなどして、一時的に公債費比率が高まることもありますが。

(市長)

今は通常時ではないので、公債費比率が上がるから、防潮堤ができませんとか、そういう話にはならないと思います。一時的な地方債の発行もあるでしょうが、これから将来に向けて市役所もない、消防署もない、図書館もない状態ですから、健全化云々も大事でしょうけれども、健全化を考える段階にないと思います。

(記者)

副市長にお聞きしますが、就任から2か月を振り返っての感想はいかがでしょう。

(副市長)

8月1日に着任して、毎日がバタバタと過ぎ去っていきますので、あまり振り返る暇もないわけですが、今重要なのが復興計画で、陸前高田市は8月に避難所は解散し、プライベートが確保された段階で、市としても復興計画をがんばる時期にあります。

住民は仮設住宅に移ると、避難所よりも生活の不安が大きくなってくると思います。家賃は無料ですが、避難所では支払わなくてもよかった光熱費もかかりますし、雇用の確保の問題もあります。

失業給付も政府で年内まで給付期間を延ばすと言っていますが、それが切れた段階で、大きな雇用不安が出てくると思いますので、いろいろな対応をしていかなければなりません。

昨日、復興のまちづくりについて、いろいろな方の意見を聞きましたが、今夜は、20代から40代の22人によるフリートークを行います。いろいろな方の意見を聞きながら、復興計画を策定していきたいと思っています。

(企画部長)

ほかにございませんか。

<質疑なし>

(企画部長)

それでは、これで市長定例記者会見を終わります。

終了 午前9時30分